

令和6年度 伊勢地域公共交通会議

第4回 議事要旨

■開催概要

日時：令和6年12月25日（水） 13時30分～15時20分

場所：伊勢市商工会議所 4階中ホール

出席者：全19名

学識経験者

2名（名古屋大学大学院 環境学研究科教授（オンライン出席）、
近畿大学工業高等専門学校 総合システム工学科教授（オンライン出席））

市民代表 2名

一般乗合旅客自動車運送事業者

2名（三重交通株式会社 企画部長、随行者1名）

一般旅客自動車運送事業者

1名（三重県タクシー協会 専務理事）

鉄道事業者

2名（東海旅客鉄道株式会社 東海鉄道事業部管理部企画課長、
近畿日本鉄道株式会社 宇治山田駅長）

中部運輸局三重運輸支局

1名（主席運輸企画専門官）

三重県伊勢警察署

1名（交通第一課長）

三重県 2名（地域連携・交通部 交通政策課 課長代理、
伊勢建設事務所 総務・管理室管理課長）

伊勢市 1名（都市整備部長）

事務局 5名（都市整備部交通通政策課）

傍聴者：2名

■議事内容

■ 議案第1号 令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について

事務局より議案第1号の「令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について」を説明した。

（三重運輸支局 小島主席運輸企画専門官）

- 議案の内容というのは、今年度の取り組みについて自己評価をしていただいたもの。中部運輸局として、自己評価いただいたものを有識者のご意見をうかがいながら二次評価させていただく。
- 中部様式は、運輸局へ提出するだけを目的にしているのではなく、委員や市民の皆様に協議会の取り組みを分かりやすくご覧いただくツールとして活用していただければ良い。
- 2月に有識者を交え第三者委員会を開催し、3月には運輸局より二次評価を通知する。

議案第1号 令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価については、承認をいただいた。

■ 議案第 2 号 伊勢市地域公共交通計画について

事務局及び委託業者より議案第 2 号の「伊勢市地域公共交通計画について」を説明した。

(市民代表 五十子氏)

- 公共交通満足度について、若い方が不満と回答されているが、どのようなことが不満か。

⇒昨年度実施したオンライン市民アンケートによる結果であり、不満の理由に関する設問が無かったため、具体的な内容は把握できていない。

(三重交通株式会社 小瀬古企画部長)

- 路線バスの運行ルートはこれまで同一であり、昔は駅前に集中していたが、必要に応じて変えていかなければいけない。
- 路線バスの小型化によってコミュニティバスのような需要が見込める場所をバス事業者が受け持つことや、広範囲で本数が少ないような場所ではおかげバスへ転換すること等、全体的に路線バスの再編を考えなければならぬと感じている。
- 結節点の活用により利便性を改善していく等、目標に対応する路線バスのあり方についても、バス事業者としてのノウハウを活用しながら議論できれば良い。

⇒路線バスを見直す良い時期であるため、交通事業者からこのような発言をいただけるのはありがたいことであるため、計画策定の中で検討していく。

(近畿大学工業高等専門学校 中平教授)

- 目標指標の評価について、未達成の部分がどの程度未達成であるか、どの程度実施しなければいけないことがあるかを示した方が良い。
- 将来の高齢化率について、後期高齢者への対応を考える上では、前期高齢者と後期高齢者を分けて考えても良い。また、運行を考えていくにあたり、細かい単位である方が分かりやすい。

(名古屋大学大学院 加藤教授)

- 前期高齢者であれば公共交通利用への転換やその準備が可能である。既に後期高齢者である場合、切迫した状況にあることや新たに公共交通利用への転換を図るのは難しいという状況にある。計画の中で考えていくためにも、前期高齢者と後期高齢者を分けて検討しても良い。

議案第 2 号 伊勢市地域公共交通計画については、承認をいただいた。

■ 議案第 3 号 自家用有償旅客運送（沼木地区自主運行バス）の更新登録について

事務局より議案第 3 号の「自家用有償旅客運送（沼木地区自主運行バス）の更新登録について」を説明した。

(名古屋大学大学院 加藤教授)

- 次回更新時には、運転手の高齢化が進行するため、運行にあたり注意が必要であり、引継ぎ方法等を検討していく必要がある。
- 運行管理者を継続して実施しているため、今後も緊張感をもって取り組む必要がある。

(三重運輸支局 小島主席運輸企画専門官)

- 次回更新までに、運転手の定年に該当する方がいるため、負担がないように配慮したシフトを検討しなければいけない。
- 運行管理や点検等を含めた車両管理のノウハウについても、次の世代への引き継ぎに向けて考慮する必要がある。
- 運行管理の更新の手続きの際に、最新の情報や参考にしていただきたい事例の紹介が可能なように、輸送担当とも共有させていただく。

(名古屋大学大学院 加藤教授)

- ・ 様式第7号における「事故処理連絡体制」について、伊勢市が運送主体であるものの、運転者及び事故対応の責任者から、直接、代表者である伊勢市長へのフローとなっていることは望ましいとは言えない。実際の指揮命令体制を記載した方が良い。
- ・ 事故が発生した際に連絡体制が重要となる。また、運行管理における研修や最新の情報への対応等、更新の際に見直し・確認をすること。

⇒伊勢市長の部分が実質、担当課で対応しているところであるので、ご指摘の通り連絡体制を修正する。

議案第3号 自家用有償旅客運送（沼木地区自主運行バス）の更新登録については、ご指摘いただいた部分を修正することで承認をいただいた。

■ 議案第4号 令和7年度伊勢市コミュニティバスの運行及び路線・ダイヤ変更について

事務局より議案第4号の「令和7年度伊勢市コミュニティバスの運行及び路線・ダイヤ変更について」を説明した。

(名古屋大学大学院 加藤教授)

- ・ 議案の内容は一部だが、来年10月頃に見直しはあるか。

⇒現在のところ、令和7年10月改正の予定はない。

議案第4号 令和7年度伊勢市コミュニティバスの運行及び路線・ダイヤ変更については、承認をいただいた。

■ 報告第1号 伊勢市「日本版ライドシェア」実証事業について

■ 報告第2号 自動運転実証事業について

事務局より報告第1号の「伊勢市『日本版ライドシェア』実証事業について」及び報告第2号の「自動運転実証事業について」を併せて説明した。

(伊勢警察署 藤田交通第一課長)

- ・ 自動運転車両については、事前の走行確認、出発式の際に乗車させていただいたが、快適であるというのが率直な感想である。
- ・ 期間中の苦情・トラブルの連絡もなく無事終了したことは、非常に良かった。
- ・ 今回はオペレーターが同乗するレベル2の実証実験であったものの、レベル4や実用化に向けて実証実験が進んでいくことを強く思っている。

(名古屋大学大学院 加藤教授)

- ・ 実証実験では、信号は認識できたか。
- ・ 内宮周辺については、実証する意味のある場所である。現在は、自動運転の位置付けが計画にないなかで、今後は生活交通や観光交通等のどのような位置付けとするかを考える必要がある。

⇒信号連携は含まれておらず、信号は認識しない状況での実証実験であった。

今回の実証実験は終了であり、来年度以降については、実行委員会の協議を経て実施することとなる。

(名古屋大学大学院 加藤教授)

- ・ 日本版ライドシェアについて、タクシー協会では問題等の報告はあるか。

⇒現時点で問題・トラブル等の報告はない。（三重県タクシー協会）

(名古屋大学大学院 加藤教授)

- 日本版ライドシェアについては、今後の年末年始が需要の最大値となる。
- 住民や旅行者等のタクシーに乗りたいという需要をモニタリングし、どのような輸送が必要かを検討しなければならない。
- タクシーやライドシェアの運転手を確保できるようにすることも重要なため、次期計画に盛り込む必要がある。

(三重運輸支局 小島主席運輸企画専門官)

- 日本版ライドシェアの実証事業はタクシー事業者の管理のもと3月上旬まで継続予定であり、運行管理や教育についてももしっかり取り組んでいるが、日本版ライドシェアの運転手として初めて年末年始を迎えるため、伊勢市内の初詣客の多さや交通規制等についての教育やフォロー、降雪時の路面状況への対応等、安全第一での運行をお願いしたい。

■ その他

東海旅客鉄道(株)より、「早春のさわやかウォーキング」について、2月22日(土)に二見浦駅出発のコースが開催されることを、資料を用いて報告した。

事務局より、「伊勢ぶんか学習帳」における乗り物編の記載内容を紹介した。

三重交通(株)より、「年末年始の運行」について、口頭で以下の通り報告した。

- 新春の利用者が多くなる時期には、全営業所より50台程のバスを持ってくる予定
- 交通トラブルがないように運行するので、ご協力をお願いしたい

近畿日本鉄道(株)より、「年末年始輸送」について、口頭で以下の通り報告した。

- 12月28日(土)から1月5日(日)までは土・休日ダイヤでの運行
- 12月31日(火)23時から1日(水・祝)8時までは五十鈴川以北で運転区間の延長、特急、一般列車の増発を計画
- 1月1日(水・祝)から5日(日)まで及び1月11日(土)から1月13日(月・祝)までは、臨時列車や運転区間の延長を実施予定

市民代表 西田氏より、運転免許の返納や路線バスの減便について、以下の通り意見があり、伊勢警察署 藤田交通第一課長及び三重交通株式会社 小瀬古企画部長が回答した。

(市民代表 西田氏)

- 周囲で運転免許返納者が減少傾向にあり、その主たる理由は路線バスがないためである。運転免許証を返納してしまうと日常生活が不便になるとの声が多い。近年の運転免許返納状況はどうか。
- 大湊線について、過去には乗り切れない程の乗客があったが、現在は利用者が少なく減便も続いている。今後、高齢者が増えた際には増便の可能性はあるか。

⇒(伊勢警察署 藤田交通第一課長)

運転免許返納者のピークは5～6年前であり、ご意見の通りピークは過ぎている。運転免許証の自主返納をお願いしている立場ではあるが、返納後の移動手段が担保できていないというジレンマがある。都市機能の集積化や自動車の安全機能の向上、自動運転、ライドシェア、健康寿命の延長等、できることは何でもやっていくことで対応していかなければならない。

⇒(三重交通株式会社 小瀬古企画部長)

大湊線や土路今一色線沿線では、津波被害があつてから人口減に伴う利用者減が続いている。運転手の資源が確保でき、需要があれば運行本数は増加する。バスでは運行できない場所について小型車両を用いた交通を導入することやララパークを拠点として運行する等、予算や資源が限られるなかで、最適な交通の再編を議論できればと考えている。

以上